C002	マンダラと梵字4B		
英名科目名	Sanskrit Calligraphy and Mandala4B		
大 学 名	種智院大学		
連絡先	種智院大学教務課 TEL 075-604-5600 FAX 075-604-5610		
担当教員	児玉 義隆(人文学部仏教学科教授) 今井 淨圓(人文学部仏教学科教授)		
開講期間	2021年09月21日(火)～2022年01月11日(火) 6講時 18時10分～19時40分(毎週火曜日)		
開講形態	後期・秋学期	開講曜日・講時	火曜日 6講時
単位数	2	履修年次	1年次以上
会場	キャンパスプラザ京都		
授業定員	20		
単位互換生定員	20	京カレッジ生定員	20
試験・評価方法	平常点（30%）：主に出席状況によって評価する。ただし、遅刻等の受講態度不良は減点の理由になる 定期試験（70%）：作品提出により評価する		
超過時の選考方法	書類選考		
受講料	京カレッジ生：聴講生22,000円 科目等履修生26,000円 別途、科目数を問わず登録料5,000円（年間） 単位互換履修生：不要		
別途負担費用	約4,000円(道具・教材費・教科書)、道具・教科書を持っている人は約1,000円		
その他特記事項	【事前・事後学習】 あらかじめ、授業で扱う人名・地名・仏教要語などを辞書や辞典で調べ、予習したことをノートにまとめること。授業時間以外でも筆を持って実修にはげむこと。 【課題に対するフィードバック】 フィードバックとして、提出された小レポートや作品に対してコメントをつけて返します。あるいは小レポートや作品を回収後、解説を行います。梵字実修に入れば、それぞれの作品を添削して指導します。		
パッケージ科目			
低回生受講推奨科目			

講義概要・到達目標

【講義概要】
梵字とは悉曇文字のことで悉曇は梵語の「シッダム」を漢字で音写したもの、シッダ（成就する）から、「成就吉祥あれ」の意味に解されている。４世紀後半にインドより仏教とともに中国に伝承された当時の梵字は、書体及び字母を悉曇として、梵語文法や語句解釈などを梵音といっていた。わが国へ悉曇梵語が伝来してからは、転じて梵字の書体だけではなく、広く梵語の書法、読法、文法など、すべてを内包した総称として、「悉曇」と呼ばれるようになった。悉曇を形成する基礎的な文字が梵字である。
本講義ではインドに始まる梵字の歴史やその書き方、読み方の基本を学ぶ。とくに梵字で描かれた作例をあげながら、その教理的な背景を解説し、さらに受講者自身にも作品を写経してもらう。秋学期は仏眼マンダラを作成する。授業においては、梵字の書き方を児玉が、マンダラに関する講義を今井が担当して行う。また春学期にマンダラと梵字4Aを受講していなくとも、梵字の書き方の復習から始めるので、秋学期からの受講は可能である。

【到達目標】
①梵字を正しい筆法で、朴筆（刷毛書き）を使って書くことができる。
②梵字やマンダラについて関心を持ち、自ら進んでその内容を理解して、人に伝えることができる。

講義スケジュール

[実習](児玉担当)
１．梵字の歴史について
２．摩多(母音)体文（子音）の解説
３．摩多体文の書法1
４．摩多体文の書法2
５．切継字の書法（子音字の結合）
６～９．このマンダラに用いられる種子の書き方
10～12．作品制作とまとめ

[講義](今井担当)
１．密教の歴史
２．マンダラの語源と意味
３．諸尊法と別尊マンダラについて
４．製作作する別尊マンダラについて

教科書	児玉義隆『梵字必携』朱鷺書房 1991年
参考書	児玉義隆『梵字で見る密教－その教え・意味・書き方－』 大法輪閣 2002年 児玉義隆『梵字の書法－真言密教・ほとけの文字－』 大法輪閣 2005年 種智院大学『新梵字大鑑』法蔵館 2015年